

1.1 「みんなで育む公共交通交流会」の開催結果報告

長久手市では、市民の移動の足を支える公共交通を、みんなで育んでいくことを目指しており、「長久手市に必要とされる地域公共交通の姿」を、みんなで考えていく“きっかけ”とするため、「みんなで育む地域公共交通交流会」を開催した。

2. みんなで育む地域公共交通交流会の開催概要

- 日 時：平成27年2月8日（日）
10:00～12:30
- 場 所：長久手市役所西庁舎
3階研修室
- 参加人数：50名



3. プログラム

- 10:00 開会
- 10:05 基調講演「育みましょう！ 長久手市の公共交通を」
講演：名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授
松本幸正氏
- 10:35 Nーバスに関するワークショップの取組みの紹介
講演：Nーバスに関するワークショップ参加市民代表
- 10:50 地域公共交通活性化に向けた長久手市の取組みの紹介
講演：長久手市行政経営部経営管理課
- 11:00 意見交換会「公共交通みんなの声」
 - ・長久手市の公共交通に関する街頭インタビューの上映
 - ・参加者全員で長久手市の公共交通に対する意見交換

【コーディネーター】

松本幸正氏（名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授）

【パネリスト】

加藤直樹氏（名鉄バス株式会社運輸部部長）
木佐貫昭二氏（愛知高速交通株式会社総務部部長）
鈴木孝美（長久手市副市長）



公共交通交流会のチラシ

4. ブース・展示物

- ・名鉄バス株式会社
- ・愛知高速交通株式会社
- ・国土交通省中部運輸局愛知運輸支局
- ・愛知県
- ・長久手市（Nーバス）



5. 基調講演「育みましょう！ 長久手市の公共交通を」（松本幸正氏）

- ・公共交通は、交流の装置として捉えるべきという発想と、その活用に向けた取組みは地域住民の協力が必要という説明がなされた。
- ・地域住民による取組みに際しては、「支える」意識より「育む」意識が重要ということと、「楽しみ感」「お得感」「達成感」の3つの「感」を生んで育むことが大切との説明がなされた。



6. Nーバスに関するワークショップの取組みの紹介（ワークショップ参加市民代表）

- ・取組みの紹介は、ワークショップ参加市民（2名）によって発表が行われた。
- ・Nーバスを中心として紹介され、Nーバスの良いところ、悪いところの意見や、Nーバスで市民の何を實現するかについての意見が紹介された。
- ・また、参加市民が描いたNーバスの路線網の形のイメージや、乗ってもらい、支える利用促進の方法など、今後を見据えた具体的な意見も紹介された。



7. 地域公共交通活性化に向けた長久手市の取組みの紹介（長久手市行政経営部経営管理課）

- ・生活を支える手段としての公共交通の必要性と、第2次地域公共交通総合連携計画において、「みんなで育む公共交通」の實現を目指していることを紹介した。
- ・みんなで育む新たな取組みとして、市民のみなさんの経験から知恵と力をいただきながら、みんなで地域公共交通活性化の取組みやアイデアを考え、實現させることを目標とした『(仮称)公共交通応援隊』の結成することを宣言し、参加希望者の募集を開始した。
- ・3月25日現在で、12名の参加希望者の応募があった。



8. 意見交換会「公共交通みんなの声」

(1) 進め方の概要

- ・街頭インタビュー映像を見ていただいた後、『みんなで育む公共交通 私の「取組みたいこと」や「アイデア」』を、参加者全員にフリップに書いていただき、3名のパネリストが内容を見て回った。
- ・パネリスト自身が気になった内容を記載している市民を指名し、意見交換を展開した。



指名を受けた参加者による説明の光景

コーディネーター・パネリストの意見交換の様相

(2) 『みんなで育む公共交通 私の「取組みたいこと」や「アイデア」』の主な意見

イベントに関すること

- ・テーマ別の市内巡り1日バスツアーの開催。史跡巡り、ハイキング等の企画
- ・Nーバス1日無料デーの開催。市内各所でイベント開催と合わせて、市内商業施設などの協賛、連携を募る
- ・乗継、乗換オリエンテーリング、乗継ゲーム大会の開催
- ・高齢者、障害者が気軽に参加できるウォーキングイベントの開催
- ・元気に生活するための公共交通市民講座の開催
- ・公共交通と歴史無形文化財との連携、共演
- ・イベントに合わせた車内のイベントイメージの構築、リニモやバス車内での作品展示の実施

利用割引に関すること

- ・リニモなどでファミリー割引切符の発行
- ・市内のカフェなどと協力したお得特典の実施
- ・共通乗車券の発行

まちづくりに関すること

- ・歩行者環境の整備
- ・自然環境の維持・確保
- ・生活圏内での楽しみを増やす

公共交通の運行や案内に関すること

- ・市民による有償低額運送
- ・市域を越えたコミュニティバスの運行
- ・バス停以外でのフリー乗降の実施
- ・Nーバス南部線の乗継改善。同西部線の往復運行。大きな路線見直し
- ・Nーバスのデマンド運行の実施（高齢者や障害者などの交通弱者にやさしい運行）
- ・他市コミュニティバスの案内表示の充実
- ・バスマップへのリニモや名鉄バスの運行ルート、運行ダイヤの表記追加

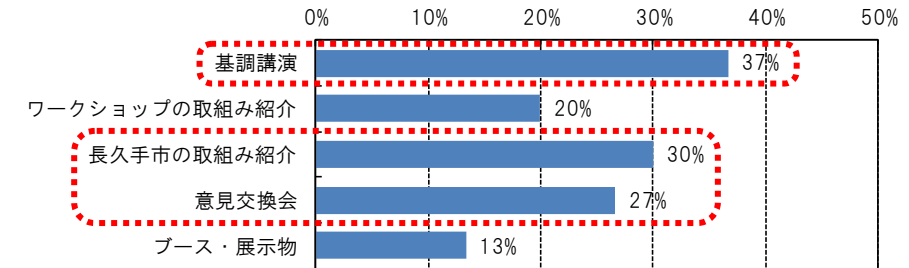
公共交通のPR等に関すること

- ・市役所バス停の待合環境の改善（庁舎内サロンへの積極活用）
- ・Nーバスの車両デザイン、由来のPR
- ・周辺に大学が多いことを活かした協力、連携
- ・公共交通を利用した市内ミニ観光などを、交流型WebサイトへのアップによるPR

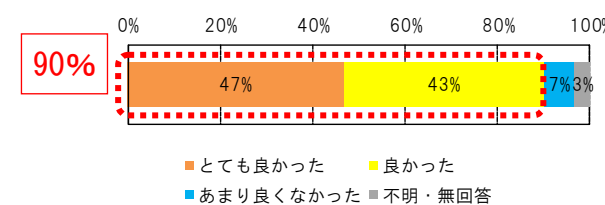
9. 参加者アンケート結果（回答者総数：30名）

- ・(1)の興味を持たれたプログラムは、「基調講演」が最も多く、「長久手市の取組み紹介」「意見交換会」の順で多い結果であった。
- ・(2)～(5)の公共交通交流会に参加した感想や意識の変化等については、約8～9割の参加から前向きな回答が得られた。
- ・(6)の公共交通交流会を知った方法は、「チラシ」と「広報紙」の回答が多い結果であった。
- ・(7)の参加者の構成は、性別は男性が57%と多く、年齢は60歳以上が51%を占めた。住まいは、市内が63%と多くを占めた。
- ・(8)の自由意見では、公共交通交流会に参加した好意的な感想が、総意見数の約半数を占めた。

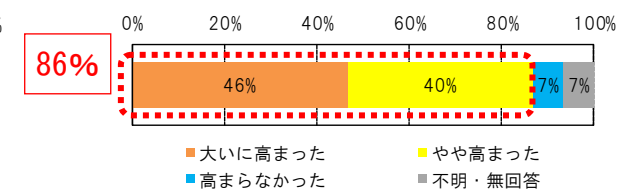
(1) 公共交通交流会の中で、興味深かったプログラム（最大2つまで）



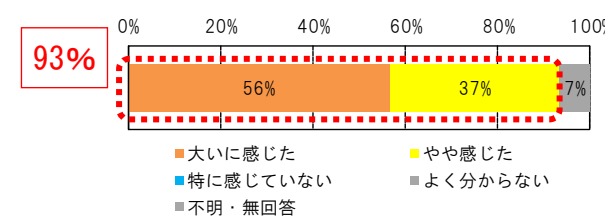
(2) 参加した感想



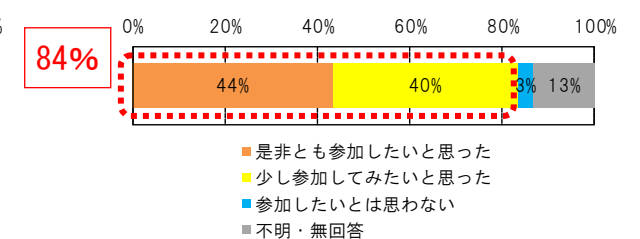
(3) 公共交通に関する関心の変化



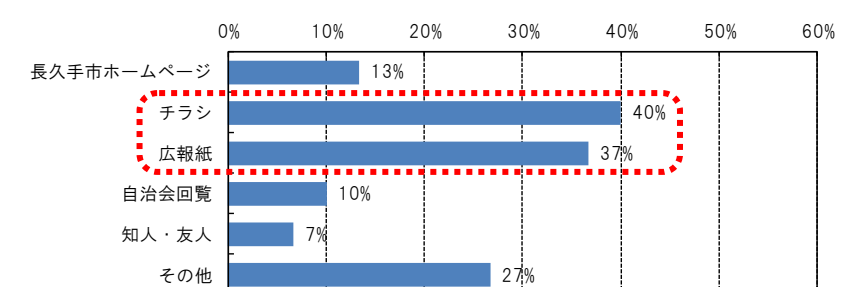
(4) 公共交通をみんなで育む必要



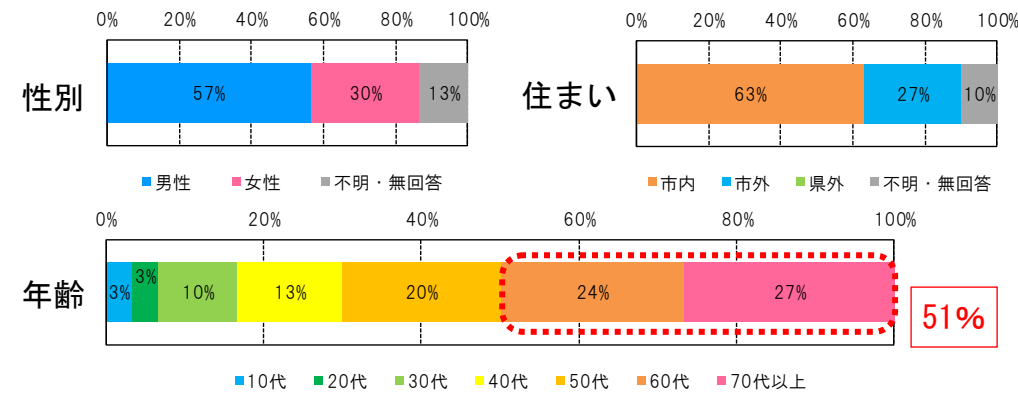
(5) 公共交通に関する取組みに参加



(6) 公共交通交流会の開催について知った方法（当てはまる全て）



(7) 参加者の構成



(8) 公共交通交流会の感想などの自由意見

意見の区分	No	記載内容
参加した感想 (感謝等)	1	自ら考える機会があって、とても良かった。
	2	大変有意義な会に参加させていただき、ありがとうございました。
	3	市民の方々に、公共交通に対する興味関心はかなり増えてきた成果が感じられました。
	4	意見交換会において、市民の方の柔軟な発想が生まれる意見は参考になりました。
	5	なかなか多彩な内容でした。
	6	(松本先生の話で) 串刺しの行政の必要性を感じた。長久手市の取組み紹介が良かった。特にアイデアを具体化する取組みが分かりやすい。
	7	いろいろな立場の人が、みんなでNーバス・名鉄バス・リニモを育てていくことが大切だということがわかりました。
	8	他市の取組みなどが知ることができてよかった。これからも公共交通を使用していきたいと思った。
	9	子供がNーバスの大ファンで、休日は毎日のように乗っています。いつもありがとうございます。今日も、前からとても楽しみにして待っていたようです。
	10	県外から越してきて何も分からないので、良い勉強になりました。
	11	これからもNーバスの利用を増やしたいと思います。
	12	皆様の協力で、楽しくNーバスを利用させて頂いています。
参加した感想 (注文等)	13	有意義な会であるが、なかなか市民の方に認知されていないと思います。多くの人に関心を持ってもらう。市内の自治会、子ども会、市民活動の場などでお知らせがあれば良いと思います。色々な年齢の方が参加できると良いと思いました。
	14	もう少し突っ込んだ意見交流会を希望したい。
	15	リニモについて、もう少し話ができると良かった。
	16	尾張旭市、日進市、東郷町、みよし市への連絡手段がなく、大変困ることが多い。これらについて検討の話があると思ったが、無かったので残念。
今後への期待・要望	17	市民参加の取組み、期待しています。
	18	生活バスの視点を忘れないように。
	19	アイデアの取組みは良いですが、困っている地域のことも考えてほしい。
	20	今は車で便利に過ごしていますが、車を手離した時期から想像すると公共施設として(必要)
公共交通の改善要望	21	要望：Nーバスの年中無休(年末年始も運行)
	22	Nーバスを減らす。福祉タクシーの利用。
今後の活動希望	23	今後も参加して、地域公共交通システムづくりをしたい。

10. 今後に向けて

(1) 評価できる点

- ・ブースについては、プロカメラマンの撮影したリニモの写真の展示や、名鉄バスの昔の車両写真、各社グッズの配布など目を引く内容が多く、来場者に好評であった。来場者の興味・関心を引くようなブース内容が必要。
- ・Nーバスの市役所到着時刻に合わせて会を開催した結果、数名ではあったが公共交通での来場者が見えた。

(2) 改善点

- ・ブースを担当していた関係者にスーツの男性が多く、圧迫感があった。
- ・チラシにみんなで意見交換としながら、時間の都合上、発表者が4名に留まってしまった。
- ・良かったという意見の一方で、公共交通システムやネットワークについて突っ込んだ意見交換がしたいという要望があった。
- ・体験型のプログラムの実施などの工夫が必要。
- ・ターゲットが明確でなかった。

(3) 今後の展開

今回実施した「みんなで育む公共交通交流会」では、新たな市民参加の取組として、地域公共交通会議が主体となって企画した。

この取組みでは、公共交通についてみんなで考えようとサブタイトルを設定し、(仮称)公共交通応援隊の結成を宣言するなど、市民主体の地域公共交通活性化の取組の実現に向けた、キックオフを行った。

平成27年度については、市民参加の取組として、(仮称)公共交通応援隊を結成し、市民主体の取組をみんなで考え実現させることを計画している。

公共交通交流会については、この取組で実施する企画が、これに変わるものとする。もしくは、市民主体の取組を実施した上で、第2回公共交通交流会の開催も検討する。